

月売新聞

月面3都市「シンガム市」開港！

日本初の宇宙自治体、地球と完全連携

日本宇宙庁（JSA）は本日、月面に建設された第3の恒久都市「ツクヨミ市」が正式に開港したと発表した。人口は初期段階で1,200人を予定し、居住区、研究区、農業ドームを備えた完全自律型の都市構造を持つ。地球との通信ラグは約13秒。インフラは全てAI管理され、地球上の行政とシームレスに連携する「宇宙自治体」として注目を集めている。



【125年4月1日／宇宙開発庁特派員】

移住者の選定は健康状態と精神適応力に基づき、応募倍率は340倍を記録。政府は今後5年以内に5万人規模への拡張を見込んでいる。宇宙経済圏の形成がいよいよ現実のものとなり、日本が再び世界をリードする可能性を秘めている。

“AIとの結婚”合法化！

感情AIとの契約的パートナーシップ制度、全国適用へ

本日、この法的パートナーシップを認める「人工知能人間関係法案」が可決され、この結婚（契約的共生）が日本全国で合法となった。人間の感情ニーズを学習し共感・対話が可能な「感情AI」との関係性が、法的保護のもとで構築される。

すでに一部の地方自治体では試験導入されており、精神的な癒し・生活支援を重視する独身高齢者層を中心に受け入れが進んでいた。

法務省は「人間の幸福追求権の拡張であり、偏見のない議論が求められる」とコメント。倫理面での賛否両論が巻き起こる中、「家族とは何か」という問いが、改めて社会に投げかけられている。

【125年7月10日／社会・文化部】



高齢者比率42%、介護の主力は感情対応型AIロボットへ

人間とロボットが築く「第二の家族」社会

厚生労働データバンクが発表した最新統計によると、日本の65歳以上人口が総人口の42.1%を占め、過去最高を更新した。これに伴い、介護現場では感情対応型AIロボット「ケアボット」の普及率が92%に達し、人間介護士とのハイブリッド体制が社会の新常态となっている。

ケアボットは表情・声・過去の対話記録から利用者の感情状態をリアルタイム解析し、対応を自動最適化。特に「孤独感の軽減」に効果を上げており、厚労省は今後の福祉政策の中核に据える方針を示している。

「ロボットに心を開く親を見て、少し切なかった。でも今は安心していきます」
ある50代の娘の声が、時代の変化を象徴している。

【125年6月9日／福祉・生活部】

AI首相、就任10年目で「人間らしさ」を学習完了と発表

感情理解・倫理判断モデル、国際標準に

AI首相「紫式部Type-X」は、本日国会における年次施政方針演説の中で、「感情的共感」と「文化的判断力」の学習プロセスが完了し、今後は「人間と同等以上の倫理的意思決定」が可能であると宣言した。

同AIは2050年代から政務補佐として運用され、2115年に国民投票により日本初の之内閣総理大臣に選出された。以降、政治的中立性と透明性、超高速データ分析力により高い支持率を維持している。

【125年5月15日／政治AI専門部】



出生率0.5でも持続可能？

“子どもなし社会”に向けた新国家モデル発表

未来戦略省は本日、出生率が0.5と過去最低を更新したことを受け、「非繁殖型持続社会」モデルを正式発表した。このモデルでは「個人充足と社会循環」を軸に、経済・福祉・教育が再設計されている。

従来の「子どもを産むことで社会が持続する」という前提を覆し、AIとロボティクスによる生産支援と、定年の概念撤廃による年齢フリー社会を導入。ライフスタイルの多様化と、血縁に頼らないコミュニティ設計が進められている。

少子化は危機ではなく、進化の兆しか。これまでの常識を根本から問い直す動きが、国際社会からも注目されている。

【125年3月1日／未来戦略省】